

コミュニケーション力を高める 英語の授業(1)



一どのように授業の中に プロジェクト活動を取り組んでいくのかー

林 秀樹 Hayashi Hideki (滋賀大学教育学部附属中学校)

① プロジェクトの設定の仕方

どこに着くか分からない船で、何の航行予定も持っていない船長と航海に行きたいと思われませんか。ミステリーツアーのようでもおもしろいと思われるかもしれませんが、遭難する危険性があります。

「自分の授業が終わったときに、生徒はどんな表情をしているだろうか」とよく考えます。『CAN-DO リスト』の作成や到達目標を設定していくことが大切だということは当然となりつつあります。今日はこれ明日はこれ、とその日暮らしの授業では生徒の力もつきません。教えている教師もいつも迷いながら、その日の授業をこなしていくだけになってしまいます。「つきたい力」を目標にプロジェクト設定することで、自分の授業に一本の筋が通っていきます。

そのポイントを以下に紹介します。

(1) 年間指導計画の最後の目標の確認

様々な言語活動のプロジェクトはどこに向かっていくのか。その最終ゴールを見失わないようにすることが大切です。そのためには最終ゴールからスタートに向かっていくような「逆算の発想」で考えていくとうまくいきます。

(2) 4 技能の統合

「話す」「聞く」「読む」「書く」の4つの技能のうちのいくつかを統合した活動にします。この目的は、活動のやりっ放しを防ぐためです。「自分の町について書きなさい」では書くだけになってしまいます。でも、「自分の町について読んだ人が行きたいと思えるように書きなさい」になると、相手を意識して書くようになり、これがコミュニケーションの必然性を生み出します。相手を書いたものを読んだり、相手が話した内容を聞いて、それを話題に話したり、活動の中に人のつながりが生まれていきます。

(3) 「言語材料を使ってどんなことができるのか」の発想

例えば、「have (has) + 過去分詞」の形で「～したことがある」という経験の意味の現在完了を教える時に、生徒に今まで経験したことがあることを3つ書かせましょう。「どう教えようか。」「どうすればわかりやすく説明できるか」などの発想ではなく、現在完了は、「どんなときに使ってどんなことを伝えることができるのか」を考えさせます。現在完了の定義は「今までにあった過去の出来事と今のつながりを伝える」ことです。ではそれをもとにどんな内容を話せるかを生徒達は考えます。すると、「今まで経験したことはないけれども、どうしても挑戦したいことについて、現在完了を使い、友達に伝えよう」といったような発想が生まれてきます。

(4) Time on Task or Task on Time?

何時間で終わらせるためには、どんな活動ができるかを考えてばかりいると、教科書を終わらせることが目的になります。「この活動をするためには何時間必要なのか」を考えます。

(5) 「遊び心」を忘れない

生徒にこれだけのことはしっかり教えておかなければ、と身構えたとおもしろい発想は生まれてきません。生徒がまず「おもしろそう」と興味を持つことを考えます。生徒が楽しそうに活動している姿を想像しながら考えると、アイデアも生まれます。

② 実践事例

ここでは、いくつかの具体的なプロジェクトを紹介しながらどのようにプロジェクトを設定していくかを紹介します。

(1) プロジェクトの基本的な設定の仕方

《カットアウトピクチャーで自分の町をプレゼン》

活動

- ・あなたの町や観光名所を紹介する文を書く。
- ・A4一枚に絵4つと英文でまとめる。
- ・それぞれの絵に英文は4文以上書く。
- ・発表は絵だけを見て、発表する。

技能 「話す」「聞く」「書く」

言語材料

- ・There is / are…「～が〇〇にある」という表現で、知らない人に自分の町にあるものを伝え、その後詳しい説明を行う。
- ・助動詞…「～できる」「～するだろう」「～したほうがよい」等助動詞を使って、相手がその町に行きたくないようなおすすめのポイントを伝える。

時間 原稿作り(1時間)、交流と練習(1時間)、発表とまとめ(1時間)…計3時間*

※3時間も余分はない場合もあるでしょう。しかし、それは教科書の進度と別の3時間と考えずに、この活動をするために各時間で何ができるだろうと考えます。

進め方は、この単元では最後にこのプロジェクトがあることを最初に示します。そして、教科書や文法の基礎的な事項を教える各1時間の中にこの活動を組み入れていきます。各時間で、一つの絵とその説明文を書かせます。すると次の時間には前回書いた文と絵を使って生徒同士で交流の時間を持たせることもできます。また、その次の時間には2つの絵と文とで交流します。この活動をくりかえすと、練習も複数回できるし、交流することによって他の人のよいところに気づき、自分の文の見直しもできます。3時間終わった後には、練習と見直しもできています。最初にプロジェクトを設定しておく、授業と授業のつながりが生まれます。

そして、最も大事なポイントは何を「つけたい力」として設定しておくかです。

- (ア) 聞いた人が興味を持ってもらえるような英文を書くことができる
- (イ) 絵を見ながら自分の使える表現を使って、描写できる
- (ウ) 相手が興味を持ってもらえるようなプレゼンができる
- (エ) 相手のプレゼンに興味を持って聞くことがで

きる

しかし、「(ア) 聞いた人が興味を持ってもらえるような英文を書くことができる」とはどのような状態を表しているのか、生徒には具体的なイメージを持つことができません。そこで、生徒達には「聞いてもらった人から3つ以上のコメントや質問をもらってくる」と指示します。コメントや質問の例は「I want to go there someday. / Oh, I didn't know that.」があります。これにより、つけたい力(エ)とのつながりが生まれ、聞いている側も主体的に相手の話に耳を傾けるようになります。このような活動を続けると、ただ書いたり発表したりするのではなく、伝える相手を意識して活動に取り組むようになります。大切なことは、単に「4文書きましょう」ではなく、「何の目的で、だれに対して書くのか」をはっきりさせて活動を作ることです。

もう一つのポイントは、本番の発表の時は、絵だけを見てプレゼンをさせることです。絵を見ながらプレゼンをすることで自分の力で英語をReproductionしていく力の基礎を養うことができるのです。

カットアウトビジュアルに挑戦しよう

カットアウトビジュアル

I live in Higashi-ohmi city.
There are some museums there.
One of them is a kite museum.
There are many kites from the world in the museum.
Higashi - ohmi is famous for a very big kite.
It is as large as 100 tatamis.
There are some cake shops near my house.
One of them is very famous.
Do you know Taneya?
I buy birthday cakes for my children on their birthdays.
They are delicious. You must like them.
There are also good restaurants near my house.
My favorite restaurant is Umiza.
It is a sushi restaurant.
I like its lunch set very much because we can enjoy tempura, udon, and sushi.
If you come to Higashi omi city in the summer or the fall, you must go to eigenni.
You'll enjoy beautiful scenes and swim in the river.
You'll also see colored leaves in the fall.

カットアウトビジュアル

・あなたが住んでいるところの観光名所やお祭りを紹介する文を書きましょう。
・A4一枚に絵4つと英文でまとめましょう。手書きでもワードで作ってもよい。
・それぞれの絵に英文は4文以上。
・発表は絵だけを見て、発表する。

(2) Vision を明確に

《トライアングルチャットで3人が協力して会話を続ける》

活動 3人一組で、2分間会話を続ける。話す話題は自由。だれと組むかは当日抽選。

言語材料 既習の表現全般

評価 評価は5段階

- ① 会話に積極的に参加しているか
- ② 英語の正確さ
- ③ 3人で会話を楽しもうとしているか

生徒にとってチャレンジングなものであり、ある程度の期間練習が必要なプロジェクトを行うときに特に大切になってくるのが、見通しを教師だけでなく、生徒に持たせることです。この活動では3人で会話を続けるために、会話を発展させていく練習をペアで行わせ、その練習計画を立てさせました。

○ ペア活動の計画を立てよう。必ず鉛筆で書くこと。

回	達成度	何をやるか	回	達成度	何をやるか
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

練習は授業の導入の帯活動として行います。練習の中で生徒達自身が自分の課題に気づいていきます。課題の克服に向けて何が必要かを考え、それを練習で実践してみる。そして、ふりかえる。また、実行を試みる。PDCAのサイクルを組み込み、少しずつ生徒の成長と変容を仕組んでいくこともプロジェクトの大切な面です。

そしてその生徒達の活動の中でよい方法で実践している例があれば、授業の中で取り上げて発表したり、プリントなどでまとめて共有していくと、活動のレベルが上がっていきます。

(3) 活動の形態の工夫

《Jeopardy でクイズ大会》

活動 各グループ8問のクイズを作る。1人2問どの問題を出すか決めておく。

問題の種類

- ① True or False 形式
- ② 選択形式：Which, Who ～?
- ③ 答えを言う：What, Which, Who ～?

Culture& history	People	Science&Geography	Creautre
(あ)	(あ)	(あ)	(あ)
(い)	(い)	(い)	(い)

言語材料 比較級の表現

このプロジェクトでは、グループ対抗のクイズ大会を行います。グループにすることで競争心が芽生え、クイズは盛り上がります。プロジェクトを設定したときに、個人、ペア、グループ、クラス全体で行う方がよいのか、活動の形態も重要です。常にペア活動ではなく、プロジェクトによりどの形態がよいのか柔軟に考えます。

3. 自分の授業の中で

最後に、私が実際の授業でプロジェクトを行った後の生徒の自己評価と授業評価のワークシートを紹介します。

Program 8 の目標

評価(5段階)

- 後置修飾の使い方を理解して、ノートやプリントにオリジナルの英文などを使ってまとめることができた。 1 2 3 4 5
- 後置修飾を含んだ本文の意味を英語と日本語の語順の違いを理解しながら読むことができた。 1 2 3 4 5
- 「自分の英英辞書」を作り、工夫して英文をつくることができた。 1 2 3 4 5
- 「今まで～した一番〇な口」という話題で話したり、英語でまとめることができた。 1 2 3 4 5

Program 8 を終えて自分で評価できるところ

Program 8 を終えて、見つかった自分の課題と今後がんばりたいところ

授業評価

このワークシートをプロジェクトの最初に生徒に配布し、プロジェクトを終えた後に書き込んでもらいます。つまり、これを最初に配布することで、生徒と教師が同じ地図を持って同じ方向に進んでいくことになるのです。

本稿では、私がプロジェクトを設定しているときのポイントについて紹介しました。次回は、教科書の本文と関連したプロジェクトを紹介したいと思います。